

ひろしま木育アカデミー2022 第8回その他編「企業における木育」を12月18日（日）に無印良品アルパーク店 OpenMUJI にて開催しました。

はじめに、「なぜ企業で木育？」をテーマに2名の講師よりご講演頂きました。木育普及委員会代表（(有)一場木工所）の一場さんからは、企業において取り組む意味、メリット・効果について、企業価値の向上やブランド力のアップ（カーボンオフセット、ESG投資）、木材が人や経済面（働き方改革、来店動機になる？のような、利用者とそこで働く人のどちらにも）与える効果の視点からお話しいただきました。最後の「企業が木育を取り入れることは企業と働く人たち、そこに関わる人すべてが当たり前のように、木を生活の中に取り入れている未来をつくることだと思っています」という言葉が一場さん（木育普及委員会）の思いを反映したものとしてとても印象に残りました。県立広島大学の小林謙介先生からは、木材利用と環境の関わりを公共・事業者・消費者の立場から、広島県の実例やデータを取り上げながらお話しいただきました。「環境配慮の視点を取り入れた木育の取り組みを実現するためには、関係する事業者が手を取って取り組みを深化させること、その第一歩は木についてより理解を深めること（木育）」という趣旨の言葉は、企業において木育の活動を広めるポイントになるのではと感じました。



次に、「実践事例紹介」として、無印良品広島アルパークの羽野ゆみ様、中村奈津希様、ダイハツ広島販売株式会社つながる推進部の原田貴子様、アサヒグループジャパン株式会社コーポレートコミュニケーション戦略部の南雲裕司様にお話しいただきました。広島の地域資源の活用、企業の強みを生かした活動などの各企業さんでの取り組みと実施する上での難しさ、企業さんの思いを共有することができました。



最後に、「木育プログラムを企画しよう」として、シナリオを基にして木育のセミナーを考えるワークショップを行いました。はじめに、シナリオ「(概要) 地元のHスーパーで企画・運営の仕事をしているAさんが木育アカデミーの受講をきっかけに「現在の広場のおもちゃや遊具を木製

のものに変えたい」と社内で提案したものの、たくさんの否定的な意見が出たことから、木材や森林のことを学ぶセミナーを社内で開催しようと考えました。」を読み、そのセミナーの内容をグループで考え、共有・発表を行いました。シナリオを用いることで、より実践的なワークショップとなったのではと考えています。



本年度最後の第8回ひろしま木育アカデミー2022は、企業のみなさんにも木育の大切さを知って頂き、小さなところから少しずつ取り組んで欲しいという思いで企画しました。今回のような場を設けることで、企業間や企業とアカデミーの受講者との繋がりが生まれ、広島における木育の輪が広がればいいなあと考えています。

次年度もひろしま木育アカデミー2023として、2023年7～12月に計8回程度開催することを計画しています。詳細は、確定次第木育普及委員会のHPやFacebookに掲載します。今年度の反省点を踏まえつつより良いものとなるように改善していきますので、木育に何となく興味がある・知りたい・考えてみたい・やってみたい多くの皆様の参加をお待ちしております。



文責：木育普及委員会 副代表 木村 彰孝